

【図画工作科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 用具を正しく扱い、適切に使うことができる。
 ○感じたことや考えたことをもとに表したいことを思い浮かべ、作品の構想を考えることができる。
 △表したいことに合わせて材料や用具を選ぶ経験が少ない。

2 学習状況の分析と課題

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
学習状況の分析	低学年は、手や体全体の感覚などを働かせ、身近な材料や用具に十分に慣れることができる。中学年は、材料や用具を使いこなすために、試行錯誤し工夫しようとしている。高学年は、今までの経験や技能を総合的に生かし、自分の思いを表現することができる。	低学年は、形や色を選んだり、組み合わせを考えたりして、表し方を考えることができる。中学年は、自分の見方や感じ方を広げ、豊かに発想や構想することができる。高学年は、感じたり考えたりしたことから表したいことを見つけ、友達の作品から自分の見方や感じ方を深めることができる。	低学年は、楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことができる。中学年は、進んで挑戦しようとするすることができる。高学年は、見通しを立てて、計画的に取り組むことができる。
課題	- 自分の作品について振り返ったり、新たに目標を立てたりして、持続的に意欲をもって取り組むことが課題である。 - 感覚や行為を通して捉えた形や色をもとに表したいことを思い浮かべ、自分で材料を選択して活動を広げる経験が少ない。		

3 授業の具体的な改善策

目標	学習指導要領の教科の目標 表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想、構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。
	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 - 児童が、生活体験や思い、学校生活で学んだことを作品に表現したり結び付けたりしやすい題材や導入を設定する。 - 活動中は、一人でじっくりと考える時間と、友達と協力して取り組む時間を分けて設定する。 - 題材の始めに目標を立てて取り組み、題材の終わりには、自分の作品について文章に書いたり、タブレットPCで作品の写真を撮って記録したりして、学習を振り返りやすくする。また、児童同士で作品を見合い、見方や感じ方を深められるようにする。 - 多様な材料を用意することで児童が自己選択できる環境を作り、材料や場所を活かしながら自分の感覚や行為を通して発想したり、活動を広げたりして、造形的な視点を育む。
学年段階別改善策	
低学年	- 用具の安全面について学級全体で確認する際は、発問して考えさせ、提示することで印象付ける。 - 作品例を見せたり実演指導したりして、活動のイメージをもたせやすくする。 - 発想の手助けやアイディアの共有をするために、アイディアスケッチを活用する。 - 児童の主体的な活動や表現の工夫、成長に対し価値付け、学級や学年で共有させる。 - 自他の作品を振り返り、よさや面白さを見付けて、言葉で表す時間を確保する。
中学年	- 興味や関心をもって題材に取り組み、身近なものから発想や構想できるように、季節や学校行事と関連させて題材設定を工夫する。 - 造形遊びを通して児童が材料や場所に自発的に関わり、自分で材料を選択して活動を広げることができるようにする。 - 用具の基本的な扱い方や活用を、発問や掲示物で示し、共有して、基本的技能の習得を図る。 - 作品の鑑賞会の時間を設け、ワークシートに『どう感じたか』『理由は』など、視点を示して具体的な言葉で書かせて考えを具体化して伝え合う。
高学年	- 今までの経験や技能を総合的に生かし、生活や思い、身近な芸術と結び付けながら表現できるような題材を設定し、用途や美しさを考えさせながら取り組ませる。 - 作品を見て、感じたことや気付いたことを基に自分の考えや思いを共有し、見方や考え方を深める。 - 授業のめあてを確認し、めあてをもとに自分の思いを膨らませ、表現することで知識・技能を身に付けることができるようにする。